

プレイバック・シアターの方
AI時代に必要な人間中心リーダーシップ
(2025年2月1日・プレイバック・シアター体験会詳細レポート)

2025年2月4日

編集：Creative Guild ギルドマスター 渋谷 健

※ワークショップの結果に基づき、ChatGPT(GPT4o)使用して作成

目次

1. はじめに：AI時代における人間中心のリーダーシップの必要性.....	2
2. プレイバック・シアターとは何か？ その手法とリーダーシップへの可能性.....	3
3. プレイバック・シアター リーダーシップワークショップ	4
4. トランスフォーメーション・インサイト：	6
5. リーダーシップ開発におけるプレイバック・シアターの未来.....	8
6. まとめ：未来のリーダーたちへ	10

1. はじめに：AI時代における人間中心のリーダーシップの必要性

人工知能（AI）の急速な進歩は、産業界を根本から変革しつつあります。事務作業の自動化からミリ秒単位でのデータドリブンな意思決定まで、AIは働き方を一変させています。企業は機械学習アルゴリズム、予測分析、インテリジェント・オートメーションを活用し、生産性を向上させています。しかし、AIがより多くの分析的・オペレーショナル的役割を担うようになるにつれて、「リーダーシップにおける人間ならではの要素」とは何か、という重大な問いが浮かび上がります。

真のリーダーシップとは、単に知識を処理したり、効率的に決断を下したりすることではありません。そこには信頼の構築、コラボレーションの促進、イノベーションを鼓舞する要素が求められます。いかに高度化したAIであっても、こうした特質を再現することはできません。リーダーシップの未来は、感情的知性、適応力、ストーリーテリング、そしてファシリテーションにあるのです。これらのスキルこそ、人々と深くつながり、不確実性を乗り越え、意義ある変化を起こすために必要なものです。

そこで注目されるのがプレイバック・シアターです。もともとは即興のストーリーテリングを中心とした演劇形式として開発され、個々人が共有する体験を俳優がリアルタイムで演じ直すことで、人間同士の深いつながりを育むことを目的とします。このユニークなアプローチは、急速に変化する世界で必須となる共感力、深い傾聴、適応力といったリーダーシップの要素を鍛えるのに効果的です。

2025年2月1日、Creative Guildはプレイバック・シアターリーダーシップワークショップを開催しました。その目的はシンプルでありながら深遠——ストーリーテリングと即興が、AI時代のリーダーシップをいかに再定義し、壁を取り払い、参加者のエンゲージメントを高めるかを実際に体験することでした。ビジネスリーダー、学生、そしてウクライナ人パフォーマーが一堂に会し、体験型のストーリーテリング、即興の再現、そして深い省察の旅を共有しました。

本レポートでは、ワークショップから得られた示唆をまとめています。プレイバック・シアターがいかにリーダーシップ開発を変革し、AIが支配的になりつつある時代において、なぜ人間中心のリーダーシップがこれまで以上に重要なのかを明らかにします。

2. プレイバック・シアターとは何か？ その手法とリーダーシップへの可能性

プレイバック・シアターは、個人的な体験と集団的な理解をつなぐインタラクティブなストーリーテリング手法です。1975年にニューヨークでジョナサン・フォックスとジョー・サラスによって開発され、当初は共有された物語を通じて人間同士のつながりを深める目的がありました。現在では、リーダーシップ開発、チームビルディング、異文化コミュニケーションにおいて強力なツールとして認知されています。

コアとなるプロセス

1. 参加者が実際の体験や内省を共有します（しばしば個人的なエピソード）。
2. トレーニングを受けた俳優がすぐにそのストーリーを演じ直します。この際、台本はなく、直感・即興・深い傾聴が鍵となります。
3. 台本のないパフォーマンスを通じて、物語の提供者（ストーリーテラー）は自身の経験を新たな視点で捉え、感情面でも深い洞察を得られます。

プレイバック・シアターの最大の力は、言葉にされていない感情を浮かび上がらせ、共有された理解を生み出すところにあります。従来のコミュニケーションがしばしば言葉や論理的思考に頼るのに対し、この方法は心のレベルでのつながりを重視します。リーダーにとっては、合理的な決定だけでなく、信頼構築やコラボレーション、複雑な人間関係への対応が求められるため、特に価値あるアプローチです。

なぜプレイバック・シアターは強力なリーダーシップツールなのか？

- **深い傾聴と共感**
他者の感情や視点を真に聞き取り、理解するスキルが養われる。
- **即興と適応的な意思決定**
台本がないため、その場で状況に対応するリーダーシップ力が鍛えられる。
- **異文化コミュニケーション**
ストーリーテリングの普遍性により、文化や言語の壁を越えやすい。
- **チームコラボレーションとエンゲージメント**
参加型のプロセスで集団の結束や信頼が高まり、心理的安全性が高まる。

すでにどのように活用されているか？

- **ビジネス**
リーダーシップ研修、紛争解決、チームビルディングなどに利用。
- **教育**
創造的思考、感情面の知性、異文化理解を育む。
- **ソーシャルインパクト**
平和構築、トラウマの癒し、地域の対話に応用。

プレイバック・シアターは単なるパフォーマンスではなく、AI時代のリーダーシップを再定義する変革的手法として注目されています。

3. プレイバック・シアター リーダーシップワークショップ

体験と主要な瞬間 Creative Guild が開催したプレイバック・シアターリーダーシップワークショップでは、業界やバックグラウンドの異なる多様な参加者が一体となり、強烈な没入体験を共有しました。このセッションは予想外かつ力強い展開を見せ、参加者の心に深い印象を残しました。

参加者と会場の雰囲気

金融、IT、コンサルティング、物流などのビジネスパーソン、高校生、ウクライナ人パフォーマーなどが参加し、世代や文化が交差する豊かな学習環境が生まれました。

冒頭は、好奇心と同時にやや戸惑いの空気も漂っていました。多くの参加者にとってプレイバック・シアターは初めての体験で、「ストーリーテリングが本当にリーダーシップを学ぶ手段となるのか？」「即興演技で本当に感情的インパクトが生まれるのか？」という疑問があったのです。しかし、セッションが進むにつれ、そうした疑問は深い没頭と感情的なつながりへと変化していきました。

共有されたストーリー

ワークショップで最も印象的だったのは、まったく異なる文化・職業・年齢層から参加しているにもかかわらず、3つのストーリーすべてが「子ども」と「次世代」をテーマとしていたことです。

どの物語も、未来を担う子どもたちに対する責任や希望、あるいは困難に関する深い内省を含んでいました。この偶然の一致は、人間にとって普遍的な関心事——つまり、リーダーシップとは根源的には次世代を導き、育むことである——を浮き彫りにしました。

参加者は、リーダーシップが単に人を管理したり戦略を立てたりするだけでなく、人々の関係性を育み、環境を形成し、次なる世代がより良い未来を築くための土台を整えることだと気づきました。

直感的な演技の力

ウクライナ人俳優たちは事前の準備なく、参加者が語ったストーリーを即興で見事に演じ切りました。その演技力は、物語に秘められた感情や葛藤、言葉にされていない真実を巧みに映し出し、参加者の心を揺さぶりました。

- パフォーマンスは直感的で生々しく、非常に心を打つものでした。
- 参加者の中には、自分が語った物語をここまで正確に感情面で再現されるとは思わず、驚きを口にする方もいました。
- 自分の体験を「外から眺める」ことで、初めて自分でも気づいていなかった感情に触れる瞬間があったという声も上がりました。

この瞬間こそ、多くの人がプレイバック・シアターの真の力を理解した瞬間でした。これは単なるエンターテインメントではなく、自身の内面や他者との深い結びつきを浮き彫りにし、新たな気づきをもたらす場なのです。

壁を打ち破り、リーダーシップを再定義する

今回のセッションで特に顕著だったのは、プレイバック・シアターが言語や文化、さらには従来のリーダーシップ観すらも乗り越える手段となった点です。

- **言語の壁**

すべての参加者が同じ言語を流暢に話すわけではありませんでしたが、感情は共通の言語。演技が伝える感情は誰にでも理解可能でした。

- **文化の壁**

ウクライナ人俳優と日本人参加者では文化的背景が大きく異なるにもかかわらず、物語に込められた感情は普遍的で、強い共感を生み出しました。

- **リーダーシップ観の壁**

特にビジネス界から来た参加者の多くは、当初は従来型の構造的なリーダーシップ観を持っていました。しかし、ワークショップを通じて、真のリーダーシップは「人を理解すること」であると気づき、固定観念を打ち破る体験を得ました。

ワークショップ終了時には、プレイバック・シアターは単なる芸術的手法ではなく、変革的なリーダーシップツールであることが明確になりました。壁を打ち破り、架け橋を築き、従来型の研修では得られないような深い人間的つながりを生み出すのです。

参加者は、リーダーシップを「頭で考える」だけでなく、「身体と心で体感する」ことで、深い傾聴や感情知性、共有体験の力を実感しました。

4. トランスフォーメーション・インサイト：

参加者がリーダーシップについて得た発見 Creative Guild のプレイバック・シアターリーダーシップワークショップは、参加者のリーダーシップ観を AI が牽引する世界の文脈で大きく変化させました。AI が業務や意思決定をますます自動化していく中で、もはやリーダーシップは「データを管理したり、戦略を実行する」ことだけを指すものではありません。むしろ、信頼の構築、人間関係の育成、不確実な状況の中で人々を導くことが重要であるという認識が高まっています。

AI を超えて：これからのリーダーシップは人間中心

ワークショップでも特に強く感じられたのは、AI が大量の情報を高速に処理できて、信頼や感情知性、インスピレーションといった「人間ならではの特質」は再現で

きないという事実でした。とりわけ企業で働く参加者は、当初リーダーシップを「構造的」「知識中心的」な役割として捉えていました。しかし、プレイバック・シアターを体験したことで、リーダーシップには「存在感」「深い傾聴」「柔軟な適応力」が不可欠だと改めて認識したのです。

プレイバック・シアターでは台本がないため、参加者は瞬間瞬間での判断や感情の動きに敏感になります。これは、ビジネスの現場で日常的に直面する、不確定要素の高い状況での即興的な対応力と共通しています。AIは分析結果を提示できても、リーダーが持つ直感力や感情面のつながりまでは代替できません。そうした人間性を活かすリーダーシップが、これからの時代にはより重要となるでしょう。

また、多くの参加者が「普段の仕事では抑え込んでいる感情」を解放し、他者と共有することの大切さに気づきました。リーダーシップは「正解を持っている」ことだけが全てではなく、相手が安心して声を上げられる場を作り、他者を理解しようとする姿勢こそが要だという学びを得たのです。

ビジネスや教育での実践的応用

ワークショップを通じ、参加者はプレイバック・シアターがリーダーシップ研修や教育、さらには社会的インパクトを高める場面でどのように役立つかを具体的に想像するようになりました。

1. 企業リーダーシップやチームエンゲージメント

- アクティブリスニング（積極的傾聴）と共感力のトレーニングに有効。
- 心理的安全性の醸成に寄与し、アイデア共有や協働を促進。
- 職場での対立やチームダイナミクスの改善にストーリーテリングを活用できる。

2. 教育現場・異文化学習

- 一方的な講義を超えて、歴史や文化、グローバルなトピックを体験的に学ぶ機会を提供。
- 学生は複雑なテーマを自分の言葉や感情で整理し、批判的思考や対人スキルを養うことができる。

3. 紛争解決や社会的インパクト

- 地域社会や文化の違いによる誤解を解消する橋渡しとなる。
- 対話が不足しているコミュニティで相互理解を生み出し、平和構築や人道支援の現場でも活用が期待できる。

- 国際的な場面（例：平和構築、難民支援など）でも、共感に基づく対話は大きな効果が見込める。

新たなリーダーシップ観

ワークショップを終え、参加者に共通していたのは「リーダーシップは知能や専門知識だけでなく、いかに人々をつながりを作れるかにかかっている」という再認識でした。リーダーシップは静的・固定的な「役職」ではなく、「動的で関係性に基づくプロセス」であることが明確になったのです。

プレイバック・シアターは、リーダーシップを実地で体験できる数少ない機会を提供しました。そこでは、優れたリーダーとは「傾聴し」「柔軟に対応し」「他者が居場所を感じられる空間を作る」人物であると体得できます。AIが存在感を増していく世界だからこそ、このような人間中心のアプローチは一層価値を持つでしょう。

5. リーダーシップ開発におけるプレイバック・シアターの未来

Creative Guild が主催したプレイバック・シアターリーダーシップワークショップの成功によって、リーダーシップ開発は従来の枠を超える必要があるという考えが改めて強化されました。AIが分析業務を担う領域が広がるほど、感情知性や適応力、人間中心のリーダーシップに対する需要は高まります。深い傾聴や信頼構築、即興による協働を促すプレイバック・シアターは、今後リーダーシップ研修の主要な手法として広がる可能性を秘めています。

Creative Guild によるプレイバック・シアター拡大への取り組み

この価値を認識し、Creative Guild は以下のような方向でプレイバック・シアターを拡充していくことを目指しています。

1. さらなるオープンワークショップの開催

- ワorkshop参加者の多くが、プレイバック・シアターを初めて体験し、大きな学びを得ました。

- 従来のリーダーシップ研修では得られない没入型・感情型のアプローチを多くの人が体験できるよう、定期的なオープンワークショップを開催していきます。

2. リーダーシッププログラムへの統合

- プレイバック・シアターは、チームビルディング、信頼醸成、感情知性の強化といった、現代リーダーシップの要素を高めるのに効果的です。
- 今後、企業のリーダーシッププログラムに組み込み、即興型の実践的な研修を提供する計画です。
- 中小企業やスタートアップ、行政機関でもコラボレーションを検討し、組織文化の活性化を支援します。

3. CSR や SDGs 関連イニシアチブへの応用

- プレイバック・シアターの持つ深い感情的アプローチやコミュニティ構築力は、企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ推進においても有効です。
- Creative Guild は、平和構築やグローバルなリーダー育成を支援したい企業とのパートナーシップを模索しています。
- 企業向けプログラムの収益を、ウクライナやガザといった紛争影響地域支援のために活用するプランも検討中です。そこでは、ストーリーテリングを活かして癒しや和解を促進します。

4. リーダー、教育者、チェンジメーカーのグローバルネットワーク構築

- プレイバック・シアターは単なるリーダーシップツールにとどまらず、文化や専門分野を越えて人々をつなぐ「ムーブメント」でもあります。
- Creative Guild は、リーダーや教育者、社会変革を目指す人々が協力してストーリーテリングを活用し、トランスフォーメーションを起こす国際的なネットワークの形成を目指しています。
- このネットワークを通じて、プレイバック・シアターのリーダーシップ教育への普及を世界規模で推進していきます。

こうした取り組みを通じ、Creative Guild はプレイバック・シアターをリーダーシップ研修や組織開発の中心的なメソッドとして確立しようとしています。共感やつながり、共有された人間性を重視する新時代のリーダー育成を加速させることで、より多くの人々や組織、コミュニティに変化をもたらすことを目指します。

次のステップとしては、このムーブメントを世界中で広め、多様な組織やコミュニティに取り入れていくことです。

6. まとめ：未来のリーダーたちへ

AIが産業を再形成し続ける今こそ、人間中心のリーダーシップの重要性がいよいよ高まっています。テクノロジーが効率化やデータ処理を担う一方で、チームをまとめ、信頼関係を築き、深いコラボレーションを促すような「人間らしさ」はテクノロジーでは代替不可能です。これからのリーダーシップを決定づけるのは、AIをいかに使いこなすか以上に、「人々をどれだけ理解し、つなぎ、導けるか」なのです。

プレイバック・シアターは単なる演劇ではなく、変革的なリーダーシップツールです。ストーリーテリング、即興、深い傾聴を通じて、リーダーに必要な共感力、適応力、エンゲージメントを養います。Creative Guildのプレイバック・シアターリーダーシップワークショップは、この手法がいかに壁を取り払い、人間同士を結びつけ、AI時代に求められるリーダーシップを新たに定義しうるかを実証しました。

しかし、プレイバック・シアターの真の力は、言葉だけでは伝えきれません。実際に「体験する」ことが不可欠です。だからこそ、Creative Guildはこの手法をさらに広め、より多くのビジネスパーソン、教育者、チェンジメーカーに参加してもらう機会を増やそうとしています。

もしあなたが、従来の研修を超えたリーダーシップ開発を求めているなら、まさにこの機会です。次回開催されるプレイバック・シアターワークショップに参加し、AIを超えたリーダーシップの世界を共に体験してください。

共感をもってリードしよう。

つながりを創造しよう。

AIの枠を超えたリーダーシップを、今ここで体感しよう。

(以上)